

## 岡山市内における S F T S (重症熱性血小板減少症候群) 罹患猫の発生報告

この度、岡山市内で初めて S F T S (重症熱性血小板減少症候群) 陽性の猫が確認されました。本症例は日常的に室内と屋外を行き来しており、ノミ・マダニ予防も未実施でありました。本症例の症状や亡くなるまでの経過をお知らせしたうえで、S F T S のリスクを低減させるには何が重要か？また、早期に発見し周囲への被害を最小限に食い止めるには何がポイントになるのかをまとめさせていただきます。

- 症例プロフィール

猫 血統：M I X 5歳 去勢雄 室内外飼育 ノミダニ予防：未実施

- 初診からの経過

### 2019.5/22 (第一病日)

体重 4.7 k g 体温 40.7°C

主訴：元気/食欲がない

血液検査：C B C 著変なし

B U N ・ C R E ・ G L U ・ A L T ・ A L P ・ T P すべて著変なし

血漿：黄疸なし

腹部エコー検査：著変なし

処置：経口投薬は不可とのことで不明熱を疑い皮下点滴・コンベニア注を実施

マダニ寄生：確認できず

### 2019.5/24 (第3病日)

体重 4.6 k g 体温：40.5°C

主訴：依然として元気/食欲なし

血液検査：W B C 低下 ( $42 \times 10^2 / \mu l$ ) ・ P L T 低下 ( $1.2 \times 10^4 / \mu l$ ) ・ B i l 上昇 (4.0 m g / d l) C P K 上昇 485 U / l 猫エイズ/猫白血病：-/-

処置：S F T S を疑い検体採取し、口腔内スワブ及び血清を山口大学へ送付するとともに、インターキャット皮下投与・皮下点滴を実施

### 2019.5/25 (第5病日)

主訴：改善なし

症状：嘔吐・黄疸の悪化

処置：インターキャット皮下投与・皮下点滴を実施

### 2019.5/26

自宅にて永眠

### 2019.5/28

遺伝子検査陽性 (口腔内及び血清)、抗 S F T S V I g M 抗体陰性

本症例は残念ながらお亡くなりになりましたが、この猫ちゃんの残してくれた情報を多くの飼い主様や獣医師が共有することで、たくさんの命が救われるように願います。

## ➤ SFTSを予防するには？

- 動物を外に出さない（5月から8月が最も感染リスクが高い）。
- ノミ・マダニ予防をする（予防をしていても100%安全ではない）。
- マダニの発生する場所（畑・あぜ道・野原・植物の生い茂った公園）を避ける。
- 野生動物の往来がある場所を避ける。

## ➤ 早期に発見し周囲への被害を最小限に食い止めるには？

- 外出している動物が食欲不振・下痢・発熱・黄疸などの症状を急に呈した場合は、速やかに動物病院に受診しSFTSの検査を依頼する。
- 症状を呈した動物との接触は極力避け、手袋・ゴーグル・マスク・長袖・長ズボンでの対応を心掛ける。

※発症猫の唾液・目やに・鼻水・尿・糞便などからウイルス遺伝子が検出されているため。

- ほとんどのヒトSFTS患者は50歳以上であることから、SFTSを疑う動物の世話は高齢者が行わないよう留意する。
- 飼い猫がSFTSと診断された、もしくは可能性ありと獣医師に告げられた場合は0.5%次亜塩素酸Naの消毒薬での飼育環境の消毒を徹底し、接触から14日以内での飼育家族の発熱があれば速やかに対応病院（保健所へ問い合わせる）へ連絡の上受診する。

